

令和6年度 事業報告

事業報告書

(1) 概況

当年度の施設運営につきましては、当初の計画に沿って円滑に実施することができました。

入場者数は、延岡総合文化センターが110,363人、野口遵記念館が99,536人となり、2館合わせて209,899人（前年比24,580人増）、開館以来の延べ入場者数は7,750,459人となりました。

各施設の利用率については、延岡総合文化センターでは、ホール全体で46%（大ホール43%、小ホール48%）、練習室63%、展示室51%、会議室関係44%となっております。

また、野口遵記念館では、ホールが66%、フリースペースが52%の利用率となっています。

施設の利用料金収入については、延岡総合文化センターが23,635,020円、野口遵記念館が16,677,670円、2館合わせて40,312,690円となり、前年比で1,075,770円の減収となりました。

(2) 施設の管理について

施設の管理につきましては、専門業者による定期的な保守点検を実施し、万全を期しております。しかしながら、延岡総合文化センターは築39年を迎えており、各設備・機器の老朽化に対応するため、計画的な改修が必要な状況です。このため、市所管課と連携し、報告・協議を重ねながら適切な対応に努めております。当年度は、変圧器およびコンデンサの更新工事、電話設備の更新工事等を実施いたしました。

なお、延岡総合文化センターについては、当年度に施設長寿命化計画の策定が検討され、今後計画的に改修が進められることとなっています。

一方、野口遵記念館においては、カフェスペース流し台新設工事や楽屋口庇（ひさし）新設工事等を実施いたしました。

今後も、「目配り・気配り・心配り」をモットーに、施設の適切な維持管理に努め、利用者の皆さんに安全で安心してご利用いただける環境づくりを進めてまいります。

(3) 自主文化事業について

当年度は、「野口遵記念館開館アピール事業」13件を含む、計34件の自主文化事業を開催いたしました。クラシックからポピュラー音楽まで幅広いジャンルの公演に加え、子ども向けのプログラムや避難体験イベントなど、バラエティに富んだ事業を実施し、幅広い世代の方々にご来場いただきました。

当年度の自主文化事業の入場者数は25,049人（前年比7,172人増）、収入は11,464,477円（前年比15,963,142円減）、支出は21,337,812円（前年比18,839,231円減）となっています。実質的な収支は、延岡市からの委託料収入等もあり3,205,335円の赤字となっています。

また、月刊情報誌「じゃがじゃがのべおか」の定期的な発行、延岡総合文化センターおよび野口遵記念館のホームページをさらに充実するとともに、SNSを活用した継続的な情報発信を行い、幅広い年齢層への情報提供に努めました。

さらに、チケット販売システムの導入により、インターネットを通じたチケット購入が可能となり、利用者の利便性が向上しました。